

地域再生プロジェクトの実施結果調書

実施主体 (市町村名)	ウェルカム道東道!!オールくしろ 魅力発信キャンペーン市町村実行 委員会(釧路市ほか管内7町村)
----------------	--

1 地域再生プロジェクトの実施結果（プロジェクト全体）

地域再生 プロジェクト名	ウェルカム道東道!! オールくしろ魅力発信プロジェクト		実施 期間	平成26年度～平成27年度	事業 区分	新規・継続 2年計画のうち1年目
実施主体	市町村名：釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糖町 民間団体名：					計 8 市町村 団 体
格差の分野	地域経済の格差					
地域再生 プロジェクトの 目標	<p>(地域の現状・課題)</p> <p>道央圏と釧路・根室間を連絡する重要な基幹路線である、北海道横断自動車道（道東道）が釧路地域に延伸（平成26年度：白糖IC、平成27年度：阿寒IC）される予定であり、交流人口の拡大による観光面での効果が期待できることから、この機会をとらえて、地域の活性化に釧路地域全体で取り組んでいくことが喫緊の課題である。</p> <p>(プロジェクトの目標)</p> <p>道東道の釧路延伸に係る地元の気運醸成を図るとともに、道央圏や十勝圏において積極的に釧路地域の魅力を発信することにより、訪れる観光客の増加と地域の活性化を目指す。</p>					
取組の成果	目標の 達成度	設定目標（項目）	現状値 (平成24年)	支援期間終了後の成果目標 (平成27年)	左記の目標に対する現時点の 達成状況（平成26年）	
		観光入込客数（道内客）	3, 958千人	4, 037千人	4, 399千人	
				(H24年度比102%)	(H24年度比111%)	
具体的 な効果	プロモーションや広告宣伝を継続して実施したため、当初予定を大幅に上回る観光客の誘致を図る事ができ、地域経済活性化の一助に繋がった。					
計画の 達成度	2年間の活動を通じて達成を見込んでいた数値を、1年間でクリアする事となった。					
住民等 の評価	実施した事業内容について、報告会等の開催を通じ、地域住民の理解を得る事ができた。					
プロジェクト推進 上の課題・問題点	<p>(課題・問題点等)</p> <p>大きな課題等は無いが、広域で連携している事業のため、事業推進時における自治体間の調整に時間を要し、プロモーションの実施時に一部不備があった。</p> <p>(課題・問題点の把握、成果効果の検証、フォローアップを踏まえた今後の展開)</p> <p>PR効果の高い時期にプロモーションを設定すると、観光客向けにイベント等を実施する時期と重なり、プロモーションの実施に際し</p>					

て人員確保等の問題が発生してしまう。抜本的な解決は難しいが、最少の経費で最大の効果を得る事が出来るよう、実施時期や事業内容に見直しについて検討を進めていく。

2 地域再生プロジェクトの構成事業

(1) 実施計画の達成状況等

No	事業名	事業概要	年次別実施計画		実施状況	効果・課題	今後の展開
			年次	取組内容			
1	道央圏向け「くしろの魅力」PRプロモーション	交流人口の拡大のため、道央圏をターゲットとして釧路地域の魅力を積極的に発信する。	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・道央圏で開催される次のイベントに出展予定 ■さっぽろビアガーデン(7月) ■オールニューカーフェスタ(8月) ■さっぽろオタムフェスタ(9月) ・独自企画によるプロモーションイベントを開催 ■道央道 SA・PA プロモーション(7月) ■開通直前イベント企画(3月サッポロファクトリー) 	<ul style="list-style-type: none"> ■さっぽろビアガーデン(7月)⇒実施 ■オールニューカーフェスタ(8月)⇒実施 ■さっぽろオタムフェスタ(9月)⇒実施 ・独自企画によるプロモーションイベントを開催 ■道央道 SA・PA プロモーション(7月)⇒実施(9月) ■開通直前イベント企画(3月サッポロファクトリー)⇒実施 	<p>(効果) メインターゲットと考えていた道央圏のエンドユーザー向けに、継続的にPRする事ができ、観光入込客数の増加へと繋げる事ができた。</p> <p>(課題) 観光客の動きの活発な時期にプロモーションを設定したため、実行委員会のメンバーに負担を掛ける事となった。</p>	引き続き、道央圏でのプロモーションを通じた情報発信を実施していく。
			平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ■さっぽろビアガーデン ■オールニューカーフェスタ ■さっぽろオタムフェスタ ・独自企画によるプロモーションイベントを開催 ■道央道 SA・PA プロモーション ■開通直前イベント企画 			
2	着地型おもてなしキャンペーン	新設ICの開通を契機として、観光リピーターの拡大につなげる。	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・白糠町における次のイベントとのタイアップ ■紅葉ウォーク(10月) ■ロードレース(3月) ■白糠IC開通時記念イベント(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ■紅葉ウォーク(10月)⇒実施 ■ロードレース(3月) ■白糠IC開通時記念イベント(3月)⇒実施 	<p>(効果) 開通前の高速道路を活用し、イベントを実施したことで、広く高速道路の延伸を周知する事ができた。</p> <p>(課題) 路上でのイベントは制約が多く、他の手法でPR効果の高い事業の検討が必要。</p>	H27年度開通予定の阿寒ICが建設されている阿寒地区と協議し、開通イベントの実施に向け検討していく。
			平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ■阿寒IC開通時記念イベント 			

No	事業名	事業概要	年次別実施計画		実施状況	効果・課題	今後の展開
			年次	取組内容			
3	I C 開通の周知	I C の開通を広く周知し、管内への観光客増加を図る。	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアを活用した情報発信 ■TV・ラジオCM ■開通記念広告（新聞） ■TV番組を活用したパブリシティの実施 ■ネット広告の実施 ・情報発信ツールの作成 ■ポスター、パンフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアを活用した情報発信の実施 ■TV・ラジオCM⇒実施 ■開通記念広告（新聞）⇒実施 ■ネットでの情報発信⇒実施 ■ポスター、パンフレットの作成⇒実施 ■観光系情報誌への広告掲載⇒追加実施 	<p>(効果) テレビや新聞をはじめ、各方面で幅広く情報発信したことにより、プロモーション会場への誘客、及びくしろ地域への誘客促進を図る事ができた。</p> <p>(課題) 集中的に情報発信を実施した結果、相応の経費を負担する事となり、事業費全体が圧迫されることとなった。</p>	テレビ等メディアでの露出は非常に効果的ではあったが、実行委員会の財政状況を勘案し、今後の情報発信事業について検討していく。
			平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアを活用した情報発信の実施 ■TV・ラジオCM ■開通記念広告（新聞） ■ネットでの情報発信の実施 ■ポスター、パンフレットの作成 ■観光系情報誌への広告掲載 			
4	プロジェクト推進会議の開催	産・学・官・民で構成される推進会議を開催し、多様な意見を聞き取り事業へ反映させる。	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> オールくしろ体制での情報共有及び意見交換 ■定期的に推進会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> オールくしろ体制での情報共有及び意見交換の実施 ■推進会議の開催（5回） 	<p>(効果) 定期的に会議を開催した事により情報の共有が図られ、実行委員会以外のメンバーのプロモーション参加へと繋がった。</p> <p>(課題) 会議の参集範囲が幅広いため大人数となり、活発な議論をする場と成りえなかった。</p>	引き続き推進会議を開催するとともに、事前に主要組織から意見聴取等を行い、実施事業へ意見を反映させる体制を構築する。
			平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> オールくしろ体制での情報共有及び意見交換の実施 ■推進会議の開催 			

No	事業名	事業概要	年次別実施計画		実施状況	効果・課題	今後の展開
			年次	取組内容			
5	事業成果発表会の実施	プロジェクトの概要・進捗状況・成果等を広く地域住民へ周知する。	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対し、進捗状況・成果等を報告。 ■年間8回程度開催される市政懇談会での成果発表(H27年8月頃) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会事業報告会の開催(H27年5月) ・プレスによる実行委員会活動の情報発信 ・市政懇談会での成果発表(H27年6月) 	<p>(効果) 報告会の実施や、報道での情報発信によって、本事業で目指す目標等を広く周知する事ができ、地域住民の高速道路利用促進へ繋げる事ができた。</p> <p>(課題) 地域住民に対し、一定程度の周知は出来たが、実行委員会で聞き取りをした範囲では、まだまだ不足していると感じた。今後、周知方法については再検討が必要だと考える。</p>	地域住民への周知は、説明会を基本としながらも、より多くの住民へ情報周知できるよう、引き続き報道への情報提供を行うとともに、各自治体の広報誌等での情報発信を検討していく。
			平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会事業報告会の開催 ・プレスによる実行委員会活動の情報発信 ・市政懇談会での成果発表 			

※「地域再生プロジェクト計画書」(別記第1号様式)及び「地域再生プロジェクト調書」(別記第3号様式)の記載との整合に留意すること

(2) 実績額

(単位：千円)

No	事業名 実施主体名	実施期間	年次	事業費	財 源 内 訳						交付金 充当額 (充当要望額)	
					国庫補 助金等	道補助 金 等	市町村補助等		市町村 自己財源	民間等 自己財源		その他
							補助金等	委託費				
1	道央圏向け「くしろの 魅力」プロモーション	H26 ～ H27	全体計画	5,640		570	570			4,500		4,500
			平成26年度	4,500						4,500		4,500
			平成27年度	1,140		570	570					
2	着地型おもてなしキ ャンペーン	H26 ～ H27	全体計画	714								714
			平成26年度	714								714
			平成27年度	0								
3	I C開通の周知	H26 ～ H27	全体計画	14,122		3,429	3,429			5,500	1,764	5,500
			平成26年度	7,264						5,500	1,764	5,500
			平成27年度	6,858		3,429	3,429					
4	プロジェクト推進会 議の開催	H26 ～ H27	全体計画	0								
			平成26年度	0								
			平成27年度	0								
5	事業成果発表会の実 施	H26 ～ H27	全体計画	25		1	1			23		
			平成26年度	0								
			平成27年度	25		1	1			23		
計	事業数[5]	H26 ～ H27	全体計画	20,501		4,000	4,000			10,023	2,478	10,000
			平成26年度	12,478						10,000	2,478	10,000
			平成27年度	8,023		4,000	4,000			23		

※「地域再生プロジェクト事業予定調書」(別記第2号様式)及び「地域再生プロジェクト調書」(別記第3号様式)の記載との整合に留意すること